

高品質鶏肉「肉用熊本コーチン」の生産

県養鶏試験場 研究改良部(現、農研センター畜産研究所中小家畜部)

研究のねらい

鶏肉は、ブロイラーの改良が進み、安価で大量に生産することが出来るようになったが、今後は肉味の勝れた鶏肉の需要が高まるものと予測されるので、熊本の地鶏で味の良いことで定評のある熊本コーチンを利用した高品質鶏肉の生産技術を確立する。

研究の成果

1. 肉用熊本コーチンは、熊本コーチン雄とロードアイランドレッド雌の交配によるものが強健性及び雛生産性の点で優れている。
2. 飼養する鶏舎は開放平飼で、坪当り25～30羽収容し、闘争防止のため10日齢頃デビーキングを1回実施する。
3. 肉用熊本コーチンは、年々増体重が良くなり、出荷日齢である16週齢の成績は、育成率が97%、体重が雄3,050kg、雌2,100kg、飼料要求率が雄3.38、雌3.71となった。
4. 市販配合飼料の組合わせによる飼料給与体系を検討した結果、発育、経済性及び脂肪の付き具合等から0～4週齢は、レイヤーの育雛用前期飼料(CP21-ME2,950)、4～10週齢は、レイヤーの育雛用中期飼料(CP18-ME2,800)、10～16週齢は、ブロイラー仕上げ飼料(CP18-ME3,030)の給与が良かった。
5. 上記の飼料給与で、10～16週齢のブロイラー仕上げ飼料は、薬品無添加飼料であるが、夏期のコクシジウム症及びロイコチゾーン症の発生が予想される場合は、出荷1週間前までブロイラー後期飼料(CP18-ME3,030)を給与しても良い。
6. 高品質鶏肉の販路は限られているので、出荷契約をした上で生産する必要がある。

図1 肉用熊本コーチンの能力

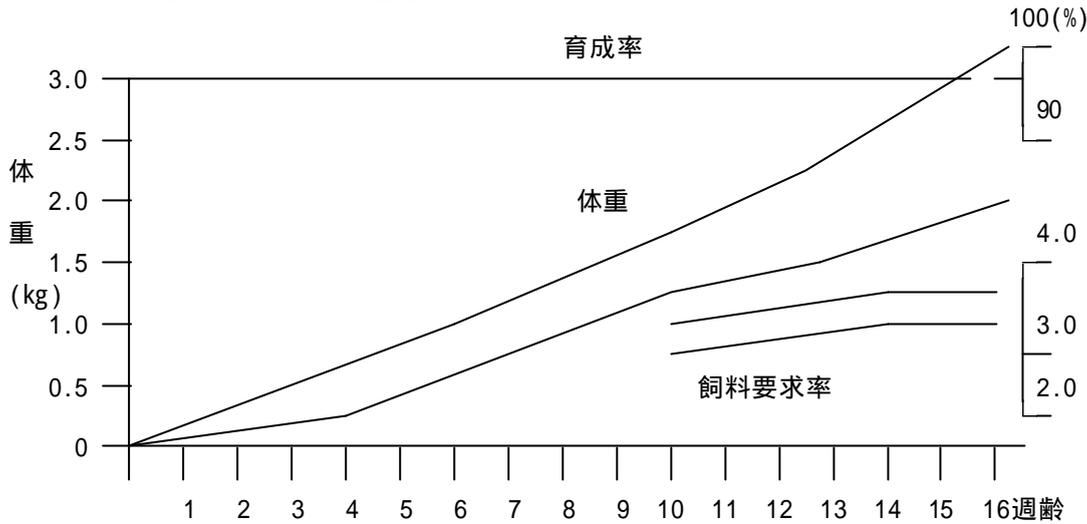


図2 飼料給与体系



MD NB NB NB (注)MD:マレック
 FP FP FP FP
 NB:ニューカッスルと
 伝染性気管支炎の混合

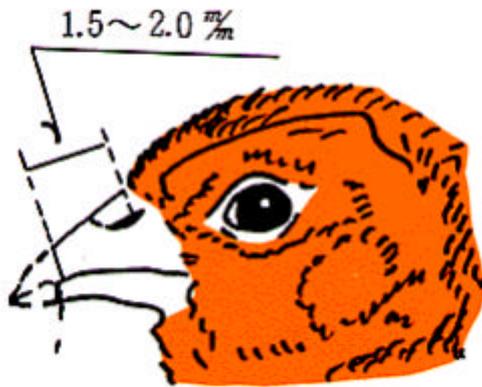


図3 デビーキングの方法